

## 1 競技に関する特別規則

### 1) 特別延長戦

継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。

すなわち、無死満塁の状態にして、1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。

勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様規則によって認められる選手の交代は許される。

## 2 審判員の裁定に関する心得

1) 常にボールから目を離してはならない。

2) 選手の邪魔にならないよい位置を占め、プレイに対し最も適切な角度と距離をとるようにする。

裁定を下す前は停止して、軽く手を膝に添えてプレイを注視せよ。走りながら裁定してはならない。

3) プレイの裁定を早まるな。最後のギリギリのところのこと。

4) 判定は、プレイが完了するまで待て。特に触球プレイではプレイが完了するのを見極めること。

5) きわどいプレイの裁定は、ゼスチャー・コールとも大きく強調すること。

6) 常にどんなプレイにも対応できる心構えと態勢を維持すること。

7) もし、裁定の一つに失敗しても、次の裁定は正確に行え。埋め合わせは決してしない。埋め合わせは、失敗をもう一度やるより悪い。

8) 他の審判員が『タイム』を宣告すれば必ず同調する。ただし、『ボーク』の場合は、プレイの成り行きを見極めた後に同調することもある。

9) トラブルが起きた場合、まず抗議者の資格を確認せよ。そして『必要なことだけを聞き必要なことだけを答える』、これがトラブル解決の秘訣である。

なお、抗議に対して審判員が協議によって出した最終結論は、再抗議があってもいわずらに変更すべきではない。(監督、コーチ、当事者)

## 3 担当審判

担当審判について各チーム責任を持ってあたること。

区分	4試合の日	3試合の日	2試合の日
1試合目	2試合目のチーム	3試合目のチーム	2試合目のチーム
2試合目	1試合目のチーム	1試合目のチーム	1試合目のチーム
3試合目	4試合目のチーム	2試合目のチーム	
4試合目	3試合目のチーム		